

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	12人	算数	12人	理科	12人
第5学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人

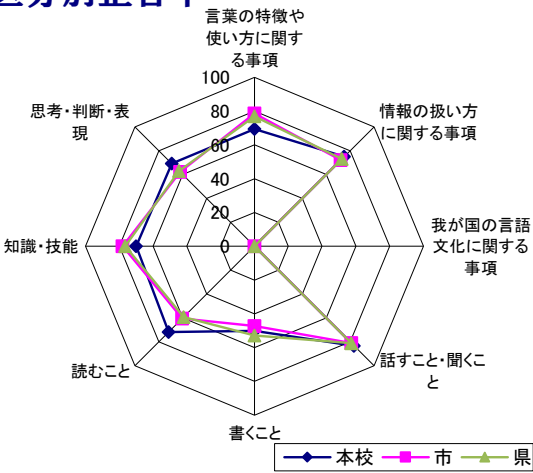
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.4	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	75.0	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	83.3	81.0	81.1
	書くこと	50.0	47.2	52.8
	読むこと	71.9	60.5	59.3
観点	知識・技能	70.0	78.0	76.5
	思考・判断・表現	69.3	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

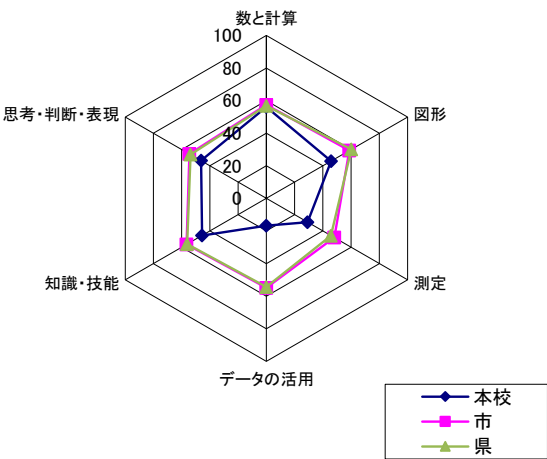
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて9.2ポイント下回った。 ●漢字を正しく書く問題では、設問ごとの正答率が50%～25%と、大きく振れ幅があった。また、ローマ字の学習の正答率も低かった。 ○主語と述語の組み合わせとして適するものを選ぶ設問では、市の平均を10ポイント以上上回った。	・漢字を正しく書く力をしっかりと定着させるために、宿題や朝の学習の時間を中心に繰り返し練習を行う。 ・語彙力に關しての正答率が低かったため、引き続き復習プリントやAIDリルに取り組みせたり、定期的に小テストを行ったりするなど、次年度の学習に繋げられるように復習を行う。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて2.8ポイント上回った。 ○国語辞典に載っている順番として正しいものを選ぶ設問では、市の平均と比べて2.8ポイント上回った。	・国語の学習を中心に、国語辞典やクロームブックを使って単語や慣用句を調べることを習慣化させていくとともに、基本的な言葉の意味を知識として定着させるために、繰り返し復習に取り組んでいくようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて2.3ポイント上回った。 ○参加者の発言の内容をもとに、司会者の発言として適するものを選ぶ設問では、市の平均を大きく上回った。 ●自分の考えを理由を挙げながらまとめる設問では、市の平均を5ポイント以上下回った。	・話し合いにおいて、参加者や司会者の役割や工夫を理解しているが、自分の考えを理由を挙げて伝えることを苦手としている児童が多いので、様々な場面で、自分の意見に理由を挙げて伝える機会を設ける。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高く、2.8ポイント上回った。 ○2段落構成で文章を書く設問では、市の平均を大きく上回った。 ●書くことの問題は、4問とも正答率が50%だった。	・個人差が大きいため、個人に合わせた学習支援を今後も続ける。 ・ミニ作文などの演習問題に繰り返し取り組ませることで自信をつけさせ、作文に対する抵抗を取り除けるようにする。 ・ICTの活用と紙ベースの授業のバランスをとりながら、授業を進める。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて11.4ポイント上回った。 ○●文章の要約を読み、空欄に適する語を書きぬく問題では、市の平均を大きく上回ったものと大きく下回ったものがある。	・読書をより習慣化させ、長文への抵抗を無くしていくようにする。 ・説明文や物語文を読む際に、叙述を基に意見を作る授業を展開する。 ・並行読書を行う。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.1	57.4	56.9
	図形	45.8	58.7	60.1
	測定	29.2	48.1	45.7
	データの活用	16.7	54.9	54.3
観点	知識・技能	45.6	56.6	56.2
	思考・判断・表現	46.3	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

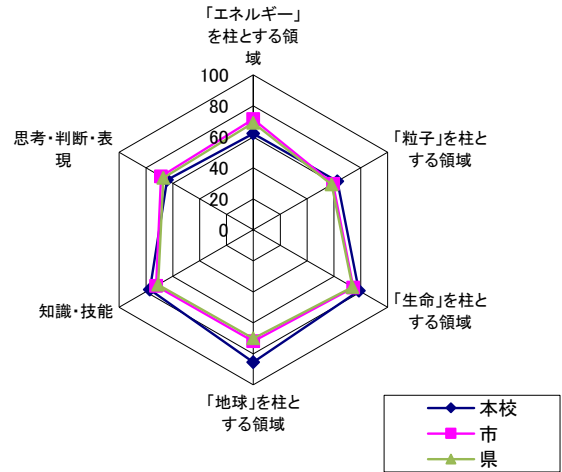
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて1.3ポイント下回った。 ○「□を使ったわり算の式に合った文章を選ぶ」問題では、市の平均を29.4ポイント上回った。 ●「小数を数直線上に表すとき、どこに位置するかを説明する」問題では、市の平均を26.2ポイント下回った。	・小数の大きさについては、数直線を用いた指導を大切にし、1を何等分したかに着目させながら、小数の意味を理解できるようにする。 ・今後も、言葉で説明する活動を充実させ、授業の中でお互いの意見を説明し合ったり、ノートに説明を書かせたりすることで考えを深く理解できるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて12.9ポイント下回った。 ○「箱の横の長さから球の半径を求める」問題では、市の平均を1.8ポイント上回った。 ●「二等辺三角形になる点を選ぶ」問題では、市の平均を24.8ポイント下回った。無回答率も41.7%と高い。	・基本的な作図の問題に繰り返し取り組むことで、コンパスを用いた正確な図形が描けるようにする。 ・図形の定義に対して理解を深めるため、プリントやドリルを用いたり、掲示して視覚的に情報が入るようにしたりするなど、繰り返し内容に触れる機会を増やして指導する。
測定	平均正答率は、市の平均と比べて18.9ポイント下回った。 ●「重さを、基準量のいくつ分かで考え、説明する」問題では、市の平均を30ポイント下回った。	・身近にあるものの重さを量ったり、正しい単位を用いて表したりすることで、量や大きさについて実感を伴った理解が図れるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて38.2ポイント下回った。 ●「二次元の表から読み取ることができる、正しい傾向を選ぶ」問題では、市の平均を大きく下回った。	・グラフや表の読み取りでは、導く結論が本当に正しいかどうか、その判断の根拠を考える場を設定するようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	62.1	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	62.5	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	78.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	85.4	72.0	70.1
観点	知識・技能	77.1	72.5	70.9
	思考・判断・表現	64.3	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて9.3ポイント下回った。 ○実験の結果から音の伝わり方について選択式で回答する問題では、正答率が75.0%であり、市の平均を9ポイント上回った。 ●実験の結果から風の強さともを動かすはたらきの関係について解釈し、短答式で回答する問題では、正答率が33.3%であり、市の平均を41.1ポイント下回った。	・日常生活において磁石や電気、風とゴムの力の働きに興味関心をもてる内容を提示し、理解を深める指導を行う。 ・考察を行う場面で、実験結果から分かったことを言葉や文章で表現する活動を取り入れる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて3.2ポイント上回った。 ○実験の結果から同じ体積でも材料の種類によって重さが異なることを答える問題では、正答率が100.0%であり、市の平均を11.3%上回った。 ●複数の物の重さを同じにした時の体積のちがいについて回答する問題の正答率は市の平均を5ポイント上回っているものの、41.7%であった。	・学習した内容を生かして発展的に考える力を養うため、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現する活動を取り入れる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて4.1ポイント上回った。 ○植物や昆虫の体のつくりや育ち方について理解しているか問う問題では、すべての問題で正答率が市の平均を上回った。 ●モンシロチョウとトンボの育ち方を比較し、そのちがいについて記述式で回答する問題では、正答率が8.3%であり、市の平均を34.5ポイント下回った。	・自然の事物・現象について追究する中で、共通点や差異点を見出し、言葉や文章で表現する活動を取り入れる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて13.4ポイント上回った。 ○方位磁針や温度計の使い方についての問題では、いずれも正答率が市の平均を上回った。 ○日なたと日陰の地面の温度について正対した記録を選ぶ問題では、正答率が83.3%であり、市の平均を24.2ポイント上回った。	・引き続き、実験器具や道具の使い方について理解し、実験結果を正確に記録することができるようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「だれに対しても、思いやりの心をもって接している。」「人と話すことは楽しい。」「クラスは発言しやすい雰囲気である。」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が、すべて100%という結果になった。このような結果を今後も維持継続していけるように、道徳や学活の授業を中心に互いのよさや違いを認め合う態度を育てていくと共に、授業の中で話し合い活動を積極的に取り入れ、児童の学習意欲を掻き立てる授業づくりをしながら、深い学びにつながるよう指導の充実を図っていききたい。

○「毎日朝食を食べている」に肯定的な回答をした児童の割合が100%であり、また、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「早寝早起きを心掛けている」は8割以上の児童が肯定的な回答をしている。この結果から、ほとんどの児童が規則正しい生活を心がけることができている。「しのいっ子生活チェック」を基に、引き続き規則正しい生活習慣をしっかりと定着できるよう声掛けをしていきたい。

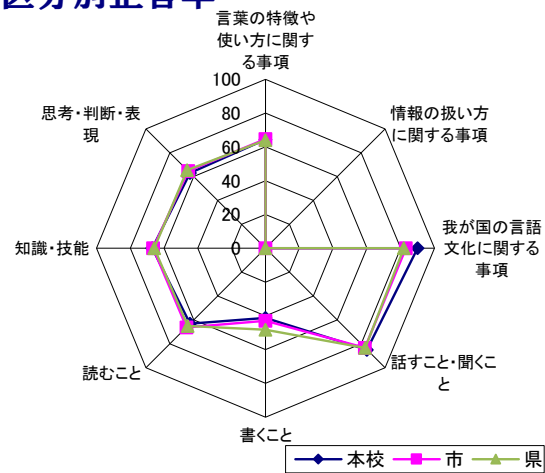
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が75%であり、大半の児童が文章を書くことに苦手意識をもっていることが分かった。対策として、自分の意見の伝え方をパターン化し分かりやすく掲示したり、簡単な文章を書く練習に繰り返し取り組ませたりするなど、児童が自信を持って自分の考えを表現できるような手立てを行っていききたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している。」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が共に41.7%であり、双方とも市の平均を20ポイント以上下回る結果となった。一方で、「学習で身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が共に100%であったことから、学習に取り組むことが大切だという意識はあるが、自分で計画を立てて取り組むに至っていない児童が半数以上いる。家庭学習の定着化を図るためにも、引き続き学習の進め方の指導を行うと共に、保護者への協力を呼びかけていきたい。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.4	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	90.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	85.0	83.3	83.4
	書くこと	41.3	42.8	48.2
	読むこと	63.1	66.1	65.1
観点	知識・技能	67.0	66.5	65.9
	思考・判断・表現	63.1	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

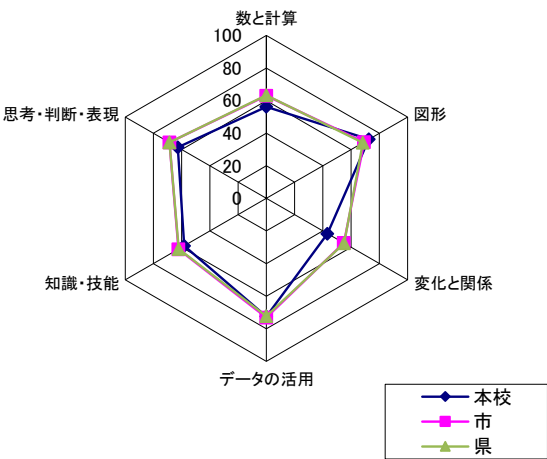
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて0.3ポイント下回った。 ○「漢字を正しく読む」問題では、3問中2問の正答率が100%と高い水準であった。 ●「熟語の組み合わせの種類が同じものを選ぶ」問題では、市の平均を13ポイント下回った。	・漢字の書き取りについては、宿題や朝学習等で繰り返し練習に取り組む。また、単元ごとのミニテストや学期末のまとめテストを計画的に実施することで定着を図る。 ・熟語については、漢字の組み合わせを理解し、熟語の意味を捉えることができるよう、言葉に着目した指導の充実を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて6.9ポイント上回った。 ○「ことわざの使い方を理解し、正しく使っている文を選ぶ」問題では、市の平均を6.9ポイント上回った。	・ことわざについては、授業の中で繰り返し復習を重ねていったり、自主学習等で取り組むことができるよう紹介していったりすることで、言語文化に触れる機会を増やし理解を深める。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて1.7ポイント上回った。 ○「話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ」問題では、市の平均を7ポイント上回った。 ●「話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ」問題では、市の平均を2.3ポイント下回った。	・聞き取った内容を友達に伝えたり、意見や質問で話をつないだりする機会を設けるなど、表現する活動の充実を図る。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて1.5ポイント下回った。 ○「アンケート調査の結果から読み取ったことを、1つ目の段落に書く」問題では、市の平均を8.5ポイント上回った。 ●「アンケート調査の結果を読み、2段落構成で文章を書く」問題では、市の平均を8.5ポイント下回った。	・今後も他教科や行事と関連を図り、作文、発表原稿など文章を書く機会を増やし、書くことに慣れることができるようにする。また、指定された条件で文章をまとめる力をつけさせる。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて3ポイント下回った。 ○「話し合いの様子を読み、文章の内容と合っていることを話している人を選ぶ」問題では、市の平均を7.8ポイント上回った。 ●「文章を読んで感じたことや考えたことを話しているやりとりを読み、空欄に適するものを選ぶ」問題では、市の平均を19.5ポイント下回った。	・物語の読み取りでは、登場人物の行動や気持ちを説明したり、それらを基に具体的に想像したことを文章にまとめて発表したりする活動を取り入れる。その際は、考えの根拠となる叙述を具体的に示すようにするとともに、自分の考えの理由付けについて説明できるようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.2	63.0	63.3
	図形	72.5	69.2	68.3
	変化と関係	43.3	54.8	55.0
	データの活用	72.5	73.1	72.3
観点	知識・技能	58.3	62.3	62.1
	思考・判断・表現	62.8	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

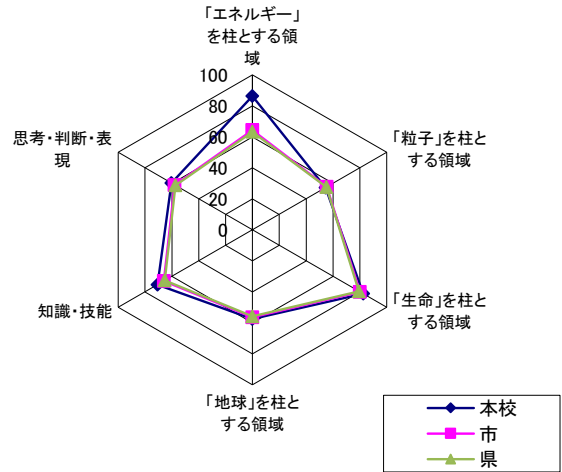
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて6.8ポイント下回った。 ○数直線から分数を読み取る問題では、市の平均を6.4ポイント上回った。 ●図から数量の関係を読み取り、立式する問題では、市の平均を大きく下回った。	・大きい数のしくみや、小数と整数の四則計算など、基礎基本が十分に身に付いていない児童が見られるので、定期的に復習や確認を行い、基礎基本の定着を図る。 ・練習問題を繰り返し行い、個に応じた支援をする。 ・授業の中で、式と計算だけではなく、言葉を使って説明を書かせるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて3.3ポイント上回った。 ○立方体と直方体の違いを問われる問題では、市の平均を8.9ポイント上回り、高い数値となった。 ●三角定規を組み合わせた角の大きさを求める問題では、市の平均を1.3ポイント下回った。	・図形の基礎的な問題についての定着を図るとともに、ICTを活用し、角や立体の理解を深める。 ・作図や角の大きさの求め方などの既習事項を再度確認し、同領域の単元のはじめに復習を行う。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と比べて11.5ポイント下回った。 ●どの設問も市の平均を下回る結果となっており、2つの数量の関係を式に表す問題に関しては、市の平均を19ポイントと大きく下回る結果となった。	・表の見方、考え方の定着を図るため、授業や朝の学習の時間を活用して問題を解く時間を確保し、変化と関係に関する問題に慣れる機会を設ける。 ・基礎基本の内容の定着を図るとともに、互いの意見についてノートに書いたり、説明し合ったりする授業展開を意識して行う。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて6.3ポイント下回った。 ○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから傾向を読み取る問題では、市の平均を6.3ポイント上回った。 ●二次元の表の空欄について問われる問題では、市の平均を9.3ポイント下回った。	・練習問題を繰り返し、個別支援を行う。 ・文章を読み解きながら表を完成していくような深い思考を必要とする問題についての誤答が多いので、順序立てて問題を解く方法や考え方について丁寧に説明し、理解が深まるようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	86.3	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	54.5	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	82.5	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	57.5	56.4	55.8
観点	知識・技能	70.7	66.0	65.3
	思考・判断・表現	60.4	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて22ポイント上回った。 ○図で示された回路から電流が流れない原因の箇所を選ぶ問題では、市の平均を25.8ポイント上回っている。 ○簡易検流計の針の振れ方を示した問題では、市の平均を24.5ポイント上回っている。	・今後も体験的な活動を充実させ、児童の学習の積み重ねが図れるようにする。 ・実験を行う際は、電流の働きに関する基本的な用語や語句を適切に捉えて行えるようにし、実験の意味や目的を明確化し、丁寧に指導するよう努める。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて0.9ポイント下回った。 ○空気を閉じ込めて圧する実験から分かることの問題では、市の平均を8.5ポイント上回っている。 ●温められた空気の動き方を答える問題では、市の平均を18.6ポイント下回った。	・今後も身の回りの現象など、児童にとって捉えやすい内容について、基礎的な語句の定着や知識理解の向上に努めるとともに、日頃から現象について触れる機会を設ける。 ・実験結果の理由などについて、児童が自分の言葉で説明する場を積極的に設け、児童が得た知識を活用する機会を増やす。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と比べて2.4ポイント上回った。 ○動物の越冬と骨と骨のつなぎ目の名称を答える問題では正答率が100%と高い水準であった。 ●ヘチマの成長の正しい順番を求める問題では、正答率が市の平均を12.6ポイント下回った。	・今後も身の回りの動植物など児童にとって捉えやすい内容については、基礎的な語句の定着や知識理解の向上に努めるとともに、教科書で取り扱う動植物のほかにも例を挙げ、児童の知識の幅を広げることに努める。 ・季節の移り変わりに伴う動植物の変化など、一連の流れで理解するものについては授業での指導に加え、掲示物等で視覚的に捉えやすくし、理解を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均に比べて1.1ポイント上回った。 ○水が水蒸気になって空気中に出ていく名前を答える問題では、市の平均を15.0ポイント上回っている。 ●結露と水滴との関係について答える問題では、市の平均を15.5ポイント下回っている。	・今後も理科に関する各事象の名称や、その内容等、既習事項を繰り返し活用することで、知識理解の向上に努める。 ・図や表、グラフなどについての基礎的な読み取り方を指導する。また、違いを比べたり推移を考えたりするなど資料に親しむ機会を設け、理解の充実を図るよう努める。 ・水の性質について、既習の内容や生活経験と結び付けて、温度を変化させたときの状態の変化について考えられるようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が81.0%で、県の66.8%を14.2ポイント上回った。また「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が85.7%で、県の64.5%を21.2ポイント上回った。そして「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が81.0%で、県の65.3%を15.7ポイント上回った。これらの結果から、児童が家庭学習を習慣化し、自分で計画的に学習に取り組んでいることが分かる。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が100%であった。また「国語、社会、算数、理科、総合的な学習の時間の学習は将来のために大切だと思いますか」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が95%を超え、教科によっては100%のものもあった。これらの結果から、児童は学習の大切さを理解して授業に臨んでいることが分かる。引き続き、児童が学習内容を自分事として捉え、主体的に学習に向かえるように指導を継続する。

●「将来の夢や目標をもっている」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が85.8%で、県の89.1%を3.3ポイント下回った。また「家の人と将来のことについて話すことがある」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が61.9%で、県の67.4%を5.5ポイント下回った。さらに「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が、県の割合を5ポイント以上下回った。これらの結果から、児童が自分の将来について多少の不安を抱えていたり、保護者と話し合う機会が少ないと感じたりしていることが考えられる。その反面、自分から進んで社会で起きている情報を取り入れている児童は少ないことが分かる。そこで、授業参観やオープンスクールなどの保護者と児童と一緒に学べる機会を利用して、将来について考えられる単元を扱ったり、出前講座などを招いたりすることを通して、児童が将来に対して前向きな捉え方をできるようにする。加えて、日々の授業でも社会情勢について触れたり、将来のことや仕事などについて児童が興味をもてるような工夫をしたりしていく。

宇都宮市立篠井小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う児童の育成	○宇都宮モデル(はつきり・じっくり・すっきり)を活用した授業改善の推進 ○ねらいの明確な提示と流れが分かりやすい授業展開 ○学習成果を次の学びへとつなげるための振り返りの工夫 ○相手意識や目的意識を明確にした、書く活動の推進 ○学びの姿を的確に捉えた、学びを深めるための発問の工夫	・「授業の中で、目標が示されている。」の肯定回答率は4年83.3%5年95.3% ・「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」の肯定回答率は4年83.3%5年95.3% ・「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の肯定回答率は4年100%5年90.5% ・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の肯定回答率は4年75%5年47.7% ・「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。」の肯定回答率4年83.3%5年85.7% ・「総合的な学習の時間の学習は好きですか。」の肯定回答率4年90.5%5年91.7%

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
--------------	--------	-----------

・基礎・基本の定着が不十分なところが見られた。 ・3教科の中でも、特に算数において、図形、測定、データの活用、変化と関係の領域に課題が見られた。 ・どの教科においても、自分の考えを文章で書き表すことや、自分から考えを伝えることに課題が見られた。	・個に応じた指導の工夫 ・苦手とする領域を意識した指導の充実 ・自分の考えをまとめ、伝える言語活動の充実	・朝の学習でのTT指導や習熟度学習など、指導体制を工夫するとともに、AIDリルや復習プリントなどを活用し、個に応じた指導を推進する。 ・朝の学習や宿題、AIDリルを活用し、苦手とする領域の問題に繰り返し取り組む。各教科において、表やグラフなどの資料から分かることを考察する活動を取り入れる。 ・各教科において、友達と考えを伝え合ったり、説明し合ったりする機会をつくり、自分の考えを言葉にする機会を多く設定する。授業のまとめや振り返りでは、自分の言葉で書かせたり、理由付けをさせたり、書くことを積み重ねる。
---	---	---